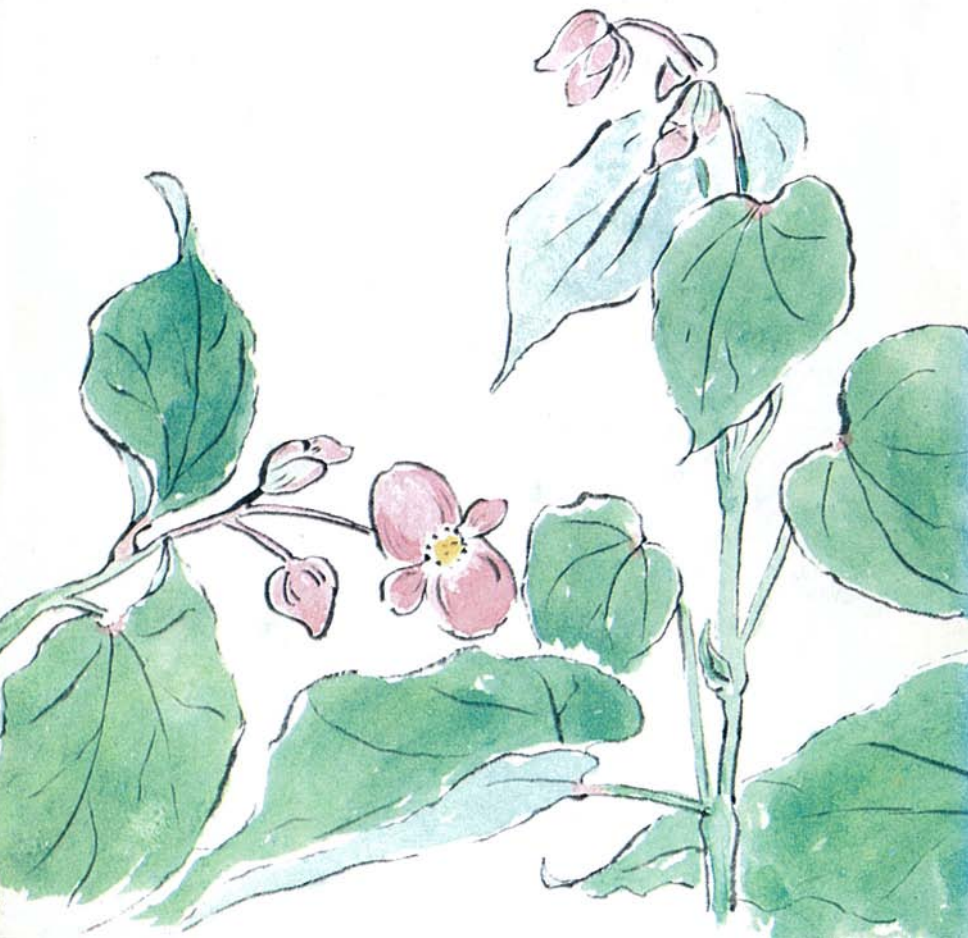


詩歌集

藻苑

加藤 木久子



詩歌集

藻苑

加藤 木久子

序

加藤木久子さんは昨年、歌人としてその作品が昭和万葉集巻六に加えられ、詩歌集「藻苑」は加藤さんが長年に渡る作品の数々から、自ら選ばれたもので、見方によっては加藤さんの内的生活の記録と言えるかも知れません。

通読して珍しく感じるのは、作者がこの長い期間、終始一貫して、稚く、純朴で、素直な、そして徒らな感傷に陥ることのない健康な感動を、少しも変らずに保ち続けてこられたことです。これは何事も忙しい今の世には不思議とさえ言えることではないでしょうか。ここには現代的な華麗さ、機智、技巧、深さ、自己顕示と言ったようなもの

は全く見られません。作者はただひたすらに、やさしく、慎ましく自己の感慨を訴え、あるいは自分自身に語りかけているようです。私は自から「藻苑」を紹介上げる力も資格もない者であることをよく知っています。原稿を拝見して、あの「文は人なり」ということばを改めて痛感いたしました。同信の友人として「藻苑」の発行を心からお喜び申し上げます。

昭和五十五年聖母被昇天祭の日に

平塚 武

詩歌集

藻そう

苑えん

目次

序

平塚 武

装幀

平塚 芳子

詩Ⅰ 聖家族

Ⅰ

聖家族 ゆめ 五月はマリアさまの月 おとおり 聖母月と
花 聖園 夕べきぬ 思慕 切願 イエズス様の謙遜 マリ
ア庭園に寄せて

詩Ⅱ 白すみれ

27

白すみれ 矢車草 朝 しんじゅに寄せて 千古の夢 りん
どう讚 夕ぐれ雲 グラジオラスの宮殿 体温計 釣鐘草
童話 ふるさとの横顔 兄と幻灯 憶う 夕月 星夜 春
風そよぐ 暁の星 幸の門 早春の疎林にて 梅花譜 堇の
花 夕路 秋は 待降節 冬が来る 白い蝶 病む 向日葵

秋

短歌 藻苑

落の臺 白木蓮 雪割の花 寒梅 くもりなき 聖家族 夜
の祈 聴診器 召命 枇杷の花 早春 柿の花 穂草 山療
枇杷の実 月明 流れ 馬酔木の花 青葉 木犀の花 聖誕
落椿 菩提樹 断崖 ロザリオ 信濃なる 生き死に 月蝕
浅春 オルゴール 芽ぶき 芝ざくら 紫陽花 貝 病む母
東京オリンピック 踏絵 銀杏樹 ふるさと 夕風の道 素
描 野の花 向日葵 山の旅 祖母 鶏頭 灯のもとに 正
月 春の雨 葡萄畑 万葉の園 葛の花 純粹なる 鶴鴿
梟 皇居 奥津城 統合 うるし葉 山鳩 春冷ゆる 新病
棟 肢体不自由児訓練棟にて

あとがき

163

87

詩集 I

聖家族



聖家族

ナザレト村の明け暮れに

静かなお住まい聖家族

お仕事なさるヨゼフさま

白百合の花香る庭

やさしい母様かみさまマリアさま

糸紡いだりお水汲み

イエズスさまもお手伝い

天使がいつも守ります

静かな夜が訪れて

イエズス、マリア、ヨゼフ様
お祈りなされるきよい声

天のお父さまおよろこび

(S
29)

ゆめ

おめめつむれば　マリア様の
おひざにねむる　夢をみました

守護の天使が　翼にのせて
わたしをつれて　行ったのでしょか

おめめがさめて　お祈りすれば
窓の小鳥も　おうたをうたう

五月はマリアさまの月

五月はマリアさまの月

ひとつとかおる白ゆりの

きよい心のマリアさま

天にまします神さまに

おん取次ぎを願います

きよい心のマリアさま

おとおり

マリアさまと

イエズスさまのお通りですよ

ほらほら きこえてくるでしょう

天使の鳴らす鈴の音

マリアさまと

イエズスさまのお通りですよ

雪の夜の道 星はピカピカ

お祈りする子をお尋ねですよ

マリアさまと

イエズスさまをお迎えしましよ
灯をともし お花飾って
おうちをきれいに致しましよ

(S
30)

聖母月と花

五月は優しい聖母月

ゆたかに花の匂う月

矢車草の青い花

聖母マリアの帯のいろ

くれないの薔薇 白いばら

めでたし聖寵みち充てる

聖母は奇すしきばらのきみ

葉陰に匂う鈴蘭は

トラピスチスの祈るよう

紫ふかく謙遜の

三色すみれ地にひくく
白いヴェールは霞草
祈りをこめて織りましよう

風に揺らげる芍薬は
燃ゆる燭台さゝげます
五月はやさしい聖母月
聖母の愛の匂う月

(52)